

水上村及び校区の概要

(1) 沿革

本村は、古来、相良藩の所領で、岩野・湯山及び江代村からなっていたが、明治4年7月廃藩置県により人吉県岩野・湯山及び江代村となり、大中小学区制時の白川県下では3村とも湯前村（現湯前町）と合併して1小区としていた。

明治12年1月大中小学区制廃止により、岩野村と江代村は黒肥地村（多良木町）と合併、湯山は湯前村に残り組合制となる。

明治12年4月町村制施行により、岩野・江代は黒肥地村より、湯山は湯前村より分かれ岩野村・湯山村・江代村の三ヶ村組合村を組織、明治28年11月28日組合村を廃止し、三ヶ村合併して現在の水上村とし、旧村それぞれ岩野・湯山・江代を3大字として広大な山村が形成され現在に至る。

(2) 地勢

本村は、熊本県東南端に位置し、東は宮崎県椎葉村と西米良村、北は八代市泉町、西は本郡五木村と多良木町、南は湯前町と接し、東西約13.5km、南北約20.0km総面積は192.5km²であり、宮崎県境にそびえる県下第2の高峰市房山（1,722m）をはじめ、江代山（1,607m）銚子笠（1,489m）高塚山（1,508m）三方山（1,236m）等九州中央山脈の連山に囲まれた山村である。

日本三大急流である球磨川は、本村大字江代の梅の木鶴に水源があり、これより村中央を南下し、村中心地にある市房ダムに流入している。ここで、市房山麓よりより発する湯山川と合流し、西下して球磨盆地を潤しつつ八代海に注いでいる。

この球磨川の最上流であることから、村名「水上」が付けられた。

標高は平均200m、気候は、年平均気温15.05℃で寒暖の差が著しく、年間平均降水量も2,798.7mmと多く6、7月に集中している。

地質は、いずれも古く河川上流地帯は、礫質壤土、下流に進むに従い埴土となり、市房山、江代山一帯は花崗岩、岩野は阿蘇溶岩が被覆している。

(3) 校区の概要

岩野地区は、水上村の南西端に位置し、農業主体の地域である。また、平成13年度より水上村北部の江代地区（農林業主体）の古屋敷小学校が統合され、本校区になった。

学校の座標は、東経130度44分、北緯32度17分、標高195mである。総面積は面積116.9km²、世帯数918世帯、人口2,387名（H26年4月現在）である。